

2023年10月14日(土)予選 / 10月15日(日)決勝

2023 AUTOBACS SUPER GT ROUND7 AUTOPOLIS GT 450KM RACE



学校法人 愛自学園 専門学校 **日産愛媛自動車大学校**



《中学生・高校生のみなさんへ》

～日産メカニックチャレンジの目的は「学生のチャレンジ精神」を養うこと！～

このレポートは「これから将来の目標を探し始める皆さん」へ「自動車整備士を目指している私たちからのメッセージ」です。日産メカニックチャレンジに参加した私たちがオートポリス戦での活動を紹介します。

今回の日産メカニックチャレンジは、自分の殻を破りたい人、成長を実感できる機会が欲しい人を募集して活動が始まりました。3日間のレースウィークを通し、「プロの現場」にチャレンジしました。



■レース結果：予選17位から決勝5位入賞！

(天気：晴れ / 気温：18℃ / 路面：ドライ / 路面温度：25℃)

オートポリスでの450kmレースは初となり、タイヤマネジメントが難しいサーキットで予選から厳しい戦いを強いられてきました。17位から上位を目指すべく、決勝では名取鉄平選手がスタートドライバーを担当。ライバルを次々とパスし着実に順位を上げ、ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ選手(以下、JP選手)に交代。ベテランらしい手堅い走りに加え、給油のみのピットイン作戦でライバルを出し抜くことに成功。更なるポジションアップを狙いましたが惜しくもチャンス到来とはならず、タイトル防衛の目標は絶たれてしまいました。しかしながら、シリーズランキング2位との差はわずか5ポイント。最終戦ではランキング2位を目指して全ての力を出し切ります。

■近藤監督インタビュー

『学生には何かひとつ、学校に持って帰ってもらいたい。』



◇この活動で学生に何を学んでほしいのか、近藤監督にインタビューしました。

「学生には何かひとつ、学校に持って帰ってもらいたい。例えばメカニックの動きや、JP選手が車両に乗り込む前後の表情とか、何かひとつでもいいから自分で得て、これからの学生生活や就職先で活かしてもらいたい。」と、私達の目の前で熱く語っていただきました。

《近藤監督がJP選手と名取選手を選んだ理由とは？》

JPはチャンピオン請負人みたいな存在であり、他チームでも話題になるくらい彼はすごいドライバーです。JPに教わった若手はみんな立派な選手になっているので名取も凄いドライバーになると思います。

名取を連れてきた時は、1年目だから少し様子を見ようと思ったがそんな必要ありませんでした。どんな注文をつけてもちゃんとその通り走ってくるし、ずっとスタートドライバーを担当しているけど、なんの心配もないくらい十分チームに貢献しています。



■ドライバーインタビュー

- ・ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ選手
(通称:JP / 1981年7月13日生まれ / ブラジル出身)
- ・名取 鉄平選手
(2000年9月11日生まれ / 山梨県出身)



左からJP選手と名取選手。JP選手は車から降りると、ご覧の通りの優しい表情。名取選手はポケモンとドラクエ好きという意外な一面も披露してくれました。

《ドライバーをしてよかったと思う瞬間はいつですか？》

「良い走りで多くの人に喜んでもらえる時です。特に、日産から特別なチャンスを頂いたことに感謝し、レース結果で恩返ししたいと常に考えています。そして世界で戦えるレベルに成長しFormula-Eにチャレンジすることが目標の1つです。」by.名取選手

《I heard that being a driver is quite hard due to the pressure and the driving environment. Could you tell me what motivates you to continue as a driver?》

(ドライバーという仕事は、プレッシャーや運転環境などでかなり大変だと聞きました。ドライバーを続けようと思ったきっかけを教えてくださいませんか？)

「Motorsports in general with a high pressure environment. always,always pressure. I think the driver must be confident in himself and there is always not any pressure to change his driving, so I think most important for the driver to be confident. 」

(モータースポーツは一般的に過酷な環境で、いつもプレッシャーを感じている。重要なのはどんな状況でも、いつでも自信を持つことだと思います。by.JP選手)

☆☆ベストカーWeb編集長特集☆☆

今回は人気自動車メディア「ベストカー」Web編集長である塩川さんが、日産メカニックチャレンジで活動する学生のため特別に広報活動のレクチャーをしていただきました。

「彼はなぜ私たちのためにこんなにもアツくなってくれるのか？」その謎を解き明かすため、私たちは編集長に直撃取材をしました！

「メカニックチャレンジなのに、なんで広報活動をするの？」って学生に聞かれることがありました。保護者や先生のなかにも、もしかしたら広報活動を疑問に思ってるかもしれない。でも、人の話を聞いたり、話を聞き出したり、写真を撮ったり動画を作ってまとめるっていうことは、みんなが整備士になってからも逃げられない作業なんだよね。仕事では書類を必ず作ることになるし、国家

資格を取ったらプロなんだよ。仕事でお金もらってるんだから、「整備士が整備はうまい」は「当たり前」であって、自動車整備以外の+α(プラスアルファ)で何ができるかが大事になると思う。例えばフロントでサービスする人がお客さんに「オルタネータを交換しました」って報告したら、お客さんは「オルタネータってなんですか？」って思うはず。車好きなら分かるけど、普通の人には分からないよね。そういうときに今回みたいなレポートを作ることや、話をまとめる作業っていうのは絶対に役に立ってくる。誰かに取材をすることやレポートを書くことは必ず仕事で使うスキルになるからやったらいいんじゃないかなーって、おっきい声で言ったら日産自動車大学校の人がやりましようと言ってくれたんで、がんばってます。



■テクニカル学生インタビュー

ピットの設営や販社TSと協力してピット作業を行います。参加学生が交代で担当し、サーキットの現場でプロの真剣さや技術力、責任感などを学びます。

【一級自動車工学科 3年 薦口 宗一郎】

《テクニカルでの活動の魅力は？》

レースに少しでも興味があれば、ぜひ参加してほしい！

テレビやYouTube、現地の観戦でも見るできないピットの裏側を見ることができ、現場の緊迫感や作業を体験できる場所です。何事にもまずはチャレンジすることから日産メカニックチャレンジは始まっています。勇気を出して参加すれば、新しいことに挑戦することがもっと好きになると思います。



【一級自動車工学科 2年 宇高 桜輝】

《今後に活かせると思うことは？》

自分を変えるチャンスなのでチャレンジして欲しいです。

自分が整備していく車両はネジ一本の緩みさえ許されないため、見落としミスがないように正確かつ素早い作業を心がけました。自分は元々消極的な性格で、そんな自分を変えるためにこの活動にチャレンジしてみました。活動のおかげで考え方や取り組み方も変わったので本当に良かったと思います。もし参加するか迷っている人や自分を変えたいと思っている人がいれば挑戦してみてください。



■ピット・マネージャー学生インタビュー

ドライバーのサポートを中心にピット全般のマネージャー業務を担当します。

【自動車整備科 2年 實藤 宏輝】

《ピット・マネージャーの活動の魅力は？》

学校の代表として自信が持てます。

ドライバーとの距離が近くチーム全体の活動もサポートするためチームの一員として活動している事を強く実感できる場所です。日産メカニックチャレンジは自分を変えるよい機会になると思うので、みなさんもぜひ挑戦して欲しいです。多くの人に支えられて活動ができていることを実感するので、とても勉強になります。



■マネジメント学生インタビュー

ご来場されたお客様方に食事やドリンクの提供を通して、心地よくレース観戦を楽しんでいただけるようおもてなしを行います。

【一級自動車工学科 2年 西森 樹】

《活動で活かせると思ったことは？》

自分で抱え込まず人に頼ることの大切さを学びました。

準備の指示出しやイレギュラー対応など、当日は考えることがたくさんあり、頭がパンクしてしまいそうになりました。しかし先生に「自分だけじゃなくて周りを頼ってね。」とアドバイスをもらい、同じ2年生のスタッフにサブリーダーの役割をしてもらい解決することができました。

観戦しているお客様と一体感を感じることが出来る活動です。これから整備士を目指す上でお客様対応の経験は必ず役に立ちます。



【自動車整備科 2年 長田 海斗】

《今回の活動で得たものは？》

状況を見て何をすべきか考えることが出来るようになりました。

お客様が集中しお弁当やドリンクのオーダーが混乱することもありましたが、受付やホールを確認し、スタッフみんなの協力で適切な対応ができました。

学校の授業で勉強しているお客様対応の基礎が活かせる場所なので自分を試す場所だと思ってチャレンジしてみてください！きっと良い経験になると思います！！



■広報メンバーってどんな人たち？

最後に、このレポートを制作した日産愛媛自動車大学校の広報メンバー4人に直撃取材！広報活動の魅力や苦労話について語っていただきました。

自動車整備科 2年 都 豊(広報リーダー)

「広報に興味があったので立候補しました。取材でインタビューするのが苦手でしたが、ベストカーWebの編集長に取材の指導をしていただき、本番で成果を発揮できました。」

一級自動車工学科 2年 武田 光生(ホスピ取材・写真担当)

「チームで協力することが重要な活動なので、学校生活でとても役に立ちます。ちなみにイチオシのレースクイーンさんも取材してきました！」

自動車整備科 1年 谷脇 陽人(ピット取材・動画担当)

「憧れの監督やドライバーさんと取材で話すことができとても良い経験になりました。先輩たちはメモの取り方が上手だったので、今後は参考にしようと思いました。」

一級自動車工学科 1年 田中 慧(サブリーダー)

「武田先輩の誘いで広報チームに参加しました。初めてのことばかりで何をすればいいか不安でしたが、みんなが一生懸命がんばっている姿を見て自分もがんばろうと思いました。オートポリスの会場で友達とみんなで屋台巡りしたのがいい思い出です。」



このレポートを見て、自分も挑戦したいと思ったみなさん。

ぜひ日産愛媛自動車大学校で整備士を目指しましょう！